

平成28年度 SSH研究開発報告書 関連資料

3-1-13 SS英語I・II

研究の検証

(1) 研究13-1 構成に注意させながら、英語で文章を書かせる機会の充実(1年生)

評価基準 A、B、C、Dの4段階で評価(観点⑥)

1学期は「学校に通えない理由」と「その解決策」の2点について、2学期は「パームオイル」と「森林破壊に対する解決策」の2点について、

A:理由と解決策(パームオイルと森林破壊の解決策)両方がきちんと書けており、説得力のある文章である。

B:どちらか一方がうまく書かれていないため、説得力に物足りなさが感じられる。

C:両方がうまく書かれていないため、説得力に物足りなさが感じられる。

D:題意を取り違えた文章となっている。

	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)
1学期作文評価	23.9	68.2	6.9	1.0
2学期作文評価	48.7	45.9	4.0	1.4

(2) 研究13-2 英語で発表する機会の充実(1年生)

評価基準 A、B、C、Dの4段階で評価(観点⑩)

アイコンタクト、音量、意味の区切り、スピード、資料提示方法のうち、

A:すべてが適切で、聞き手がきちんと理解できている。

B:4つが適切で、聞き手が十分理解できている。

C:3つが適切で、聞き手がなんとか理解できている。

D:半分以上が不適切で、聞き手の理解が難しい。

	A(%)	B(%)	C(%)	D(%)
1学期プレゼンテーション評価	29.9	56.2	12.5	1.4
2学期プレゼンテーション評価	48.9	43.2	6.8	1.1

(3) 研究13-3 科学的事象を英語で説明する練習、課題を解決する方法の継続的指導(2年生)

生徒アンケート(観点⑥)

Q1 1年次7月 ロケットが宇宙空間で加速する仕組みを説明するわかりやすい英文が書けたと思うか。

Q2 1年次11月 光の屈折の仕組みを説明するわかりやすい英文が書けたと思うか。

Q3 2年次9月 イオン結合の仕組みを説明するわかりやすい英文が書けたと思うか。

A1~A4の順に 思う、どちらかといえば思う、あまり思わない、思わない(数字は%)

	A1	A2	A3	A4	A1+A2	Q1との差
Q1	16.5	48.0	31.3	4.2	64.5	-
Q2	17.7	50.1	27.6	4.6	67.8	+3.3
Q3	27.0	52.6	18.9	1.5	79.6	+15.1

(4) 研究13-4 考えた説明や方法を皆の前で発表する機会を与え、指導する継続的取組(2年生)

生徒アンケート(観点⑩)

Q1 1年次7月 ロケットが宇宙空間で加速する仕組みを英語で上手にプレゼンテーションできたと思うか。

Q2 1年次11月 光の屈折の仕組みを英語で上手にプレゼンテーションできたと思うか。

Q3 2年次9月 イオン結合の仕組みを英語で上手にプレゼンテーションできたと思うか。

A1~A4の順に 思う、どちらかといえば思う、あまり思わない、思わない(数字は%)

	A1	A2	A3	A4	A1+A2	Q1との差
Q1	17.9	45.3	32.1	4.7	63.2	-
Q2	14.9	49.4	28.6	7.1	64.3	+1.1
Q3	23.3	51.2	24.1	1.5	74.5	+11.3

3-1-14 SS英語Ⅲ

研究の検証

(1) 研究14-1 ディベートの準備及び試合により、意見を構築、発信、反論する力を伸ばす

評価1 (観点⑨⑩)

ディベート演習前後の1学期と2学期に英作文を提出させて、記述力、論理構成力を評価した。

評価基準 A、B、C、Dの4段階で評価

A：意見の理由付けが論理的に矛盾なく書いており、説得力のある文章である。

B：意見の理由付けは書けているが、一部が論理的な説明になっておらず、説得力に物足りなさが感じられる。

C：意見の理由付けが論理的でない箇所が多いが、やや説得力がある。

D：意見の理由付けが論理的でなく、説得力もない。

	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)
1学期作文評価	25.3	48.1	23.4	3.2
2学期作文評価	48.7	41.1	8.2	1.3

評価2 (観点⑩⑪)

生徒の自己評価の項目と結果 (数値は%)

a) 自分の意見を明確に伝えられた b) 相手の意見に適切な質問ができた c) 相手の意見に論理的に反論できた

d) 大きな声で分かりやすく言えた e) 自分の意見を発表することに自信が持てた

f) ディベートを準備し、実践したことで、自分の考えがより明確に、論理的になった

	A 1	A 2	A 3	A 4	A 1+A 2		A 1	A 2	A 3	A 4	A 1+A 2
a	14.7	53.7	27.6	3.4	68.4	d	18.4	46.6	30.7	3.7	65.0
b	8.3	34.5	49.7	7.5	42.8	e	11.5	40.2	40.2	8.0	51.7
c	10.3	38.5	44.5	6.0	48.8	f	12.4	51.4	31.3	4.6	63.8

A1 よくあてはまる A2 あてはまる A3 あまりあてはまらない A4 まったくあてはまらない

(2) 研究14-2 自然科学の英文を論理構成に注意して読むことで、批判的に読む力を伸ばす

評価 (観点⑧⑩)

1学期と2学期にPISAのReading Testを実施した(1、2年は日本語で実施)。(数値は%)

	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	平均	平均の増減
1学期正答率	35	54	35	41	41	
2学期正答率	39	41	53	41	44	+3

*同一問題を学期により別の4クラスで実施。